

<b>(株)東芝 青梅事業所 サイトレポート情報</b>	
所在地	東京都青梅市末広町2-9
敷地面積	119,979m <sup>2</sup> 、建家面積：53,926m <sup>2</sup> 、緑化率：20.3%
設立	1968年1月、従業員：2,457人(2011年4月現在)
主要製品	パーソナルコンピュータ、サーバ、ハードディスクドライブ等
ISO14001認証取得	1995年7月、最新更新年月：2010年7月 (ISO認証番号：EC98J2003)



**ごあいさつ**

青梅事業所は、東芝グループ環境ビジョン2050のもと「豊かな価値の創造と地球との共生を共に推進していく」ことを根本に、エコ・リーディングカンパニーをめざしています。そのためには青梅事業所で開発するノートPC他の製品ライフサイクルを通して環境負荷の低減を図り、環境性能No.1となる商品を世界各国へ提供します。また生物多様性に配慮した森づくり(企業の森・東芝(御岳))を展開し、地球と調和した人類の豊かな生活に向けて環境経営を推進します。



環境保全責任者 平田 泰光

**2010年度の環境の主な取り組み**

- ◆**環境経営を推進します。**
  - デジタルプロダクト&ネットワーク社(本社組織及び青梅事業所)ISO14001更新審査を5月に受査。結果は「組織のマネジメントシステムは規格要求事項に適合し有効に実施されていると判断し、認証の授与を推薦します」となり、2010年度は5回目の更新審査合格となった。また、東芝総合環境監査では、環境経営評価・現場監査とも評価ランクはA評価の結果となった。
- ◆**事業プロセス環境活動における環境負荷軽減に取り組みます。**
  - CO<sub>2</sub>排出量の削減 2008年度(基準年)と比べて4.7%増加(HDD事業統合による設備移転に伴う増加)
  - 廃棄物総発生量の削減 2008年度(基準年)と比べて27.8%削減
  - ゼロエミッションの継続 最終処分率0.09%
- ◆**環境調和型製品創出における環境負荷軽減に取り組みます。**
  - 2010年度のノートPCラインナップは、全機種で「国際エネルギースタープログラム(ENERGY STAR V5.0)」に適合し、米国EPEATでGOLD評価を取得(米国モデル)。日本では、製品開発に於けるLCA(ライフサイクルアセスメント)の推進と製品ラインナップを通じた環境配慮設計で「第7回LCA日本フォーラム表彰 会長賞」を受賞。
  - 2.5型HDD「MK7559GSXP」が、2010年度に当社グループのエクセレントECPに認定。厚さ9.5mm、ディスク2枚で記録容量750GBを実現し、エネルギー消費効率を約1/47(2000年機種比較)に向上。製品全体の臭素、塩素、アンチモンフリー化を実現。
- ◆**地球内企業として社会に貢献します。**
  - 東京都の推進する「企業の森 花粉の少ない森づくり運動」企画とタイアップし、企業の森第1号として青梅市御岳地区(合計約4.6ha)に広葉樹の植林などによる森づくりを推進。第4回植林プログラムはグリーンサポーターを中心としたボランティア58名が参加し、2,340本の広葉樹を植林しました。また2年~3年前に植林した苗木が背丈以上に成長しており、今回植林した苗木も元気に成長してくれると思います。

**製品・環境技術開発、環境配慮ポイントの紹介**

東芝が世界に初めてノートPCを世の中に送り出してから25年の節目にあたる2010年。この間の技術蓄積をベースに、新たな発想を取り込み、最先端の機能を普及価格で実現した、環境配慮型ノートPC「dynabook R730」を商品化しました。「dynabook R730」は前モデルの「dynabook RX2」に比べて、より大きな液晶と高速CPUを搭載した高性能ノートPCです。13.3型ワイド液晶と光学ドライブを搭載するノートPCとしては、世界最軽量の約1.27kg(\*)を実現しました。LEDバックライト液晶の採用や細やかな電力制御によって優れた省エネ設計となっています。

**省資源**

- 0.4mm厚マグネシウム筐体(ハニカムリブ構造で強度確保)
- 主要ユニットの小型軽量化(基板、LCD、DVD)

**25th Anniversary**  
累計販売台数 1億台  
since 1985 2010  
toshiba note pc

おかげさまで、累計で、1億台。

dynabook R730

**省エネルギー**

- 主要ユニットの省電力化(回路、SSDモデル、LEDバックライト液晶)
- 東芝ecoユーティリティ(最適化されたecoモード運転へ移行)

(\*) R730/39A。光学ドライブ搭載の13.3型ワイド液晶搭載機で一般に市販されているコンシューマー向けノートPCとして。バッテリーパック61AA装着時(2010年10月、当社調べ)

**環境コミュニケーションの紹介**

- ①環境報告書の発行：2011年1月発行(1999年度より毎年発行)
- ②地域との交流 CSR活動：事業所周辺の清掃ボランティア(環境月間)、事業所内環境施設見学会(近隣小学校生徒を対象)、東芝青梅まつりでの環境クイズスタンプラリーの実施(参加者約800名)、三多摩地区東芝グループ環境担当連絡会の実施
- ③自治体等 主催行事参画：緑の募金活動(3R推進月間)、チャレンジ25キャンペーン(環境省)
- ④その他：企業の森・東芝(御岳)植林及び下草刈り(150万本の森づくり)



# 東芝青梅事業所 環境方針

青梅事業所は、都心から50km圏の西多摩の自然を色濃く残し歴史・文化・伝統を兼ね備えた東京都青梅市に位置し、ノートパソコン、サーバ、ビジネスコミュニケーションシステム等のデジタルプロダクツ製品及びハードディスクドライブに代表されるストレージデバイス機器、及び映像等の開発拠点として製品の企画、設計、製造、販売、使用、再生にいたるライフサイクルを通して、環境負荷の低減を図り、環境調和型製品を世界各国へ提供していきます。そして、東芝グループ環境ビジョンのもと、豊かな価値の創造と地球との共生を図ります。低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指した環境活動により、持続可能な社会の実現に貢献します。

## ◆ 環境経営を推進します。

1. 環境への取り組みを、経営の最重要課題の一つとして位置づけ、東芝グループ環境基本方針に基づいた環境活動を推進します。
2. 事業活動、製品、サービス、輸送に関わる全ての環境側面について生物多様性を含む環境への影響を評価し、環境負荷の低減、汚染の防止等に関する環境目的及び環境目標を設定し、継続的に環境活動を推進します。
3. 東芝グループ経営理念、東芝グループ環境基本方針に基づき、環境側面に関わる適用可能な国内外の環境に関する法令、当事業所が同意する業界等の指針、及び当事業所独自の基準を遵守します。
4. 事業所で働く全ての人々で、環境活動への積極的な取り組みを行なうと共に、関係会社等にも環境活動の積極的な指導・支援を行います。

## ◆ 事業プロセス環境活動における環境負荷軽減に取り組みます。

1. グリーン調達推進
2. 省資源・省エネルギーの推進によるCO2排出量の削減
3. 3R推進による廃棄物量削減とゼロエミッションの維持
4. 環境に影響を及ぼす化学物質の適正な管理

## ◆ 環境調和型製品創出における環境負荷軽減に取り組みます。

1. ライフサイクルを通して環境調和型製品・サービスの提供
2. 省資源／省エネルギー製品の開発・設計
3. 省資源化、再生資源の積極的な使用
4. 特定化学物質の排除

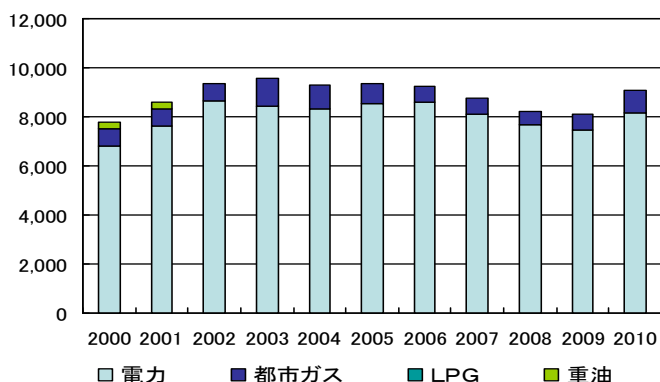
## ◆ 地球内企業として社会に貢献します。

1. 地域の方々との相互理解の促進のために、積極的な情報開示とコミュニケーションを行います。
2. 自然環境保護の為、東芝150万本の森づくりと連携し、継続的に青梅市御岳に森づくりを展開します。
3. 企業の森・東芝(御岳)を通して、周辺の野山や多摩川の川原等、動物、植物、昆虫等を観察し、生物多様性との関わり(恵みと影響)を認識します。

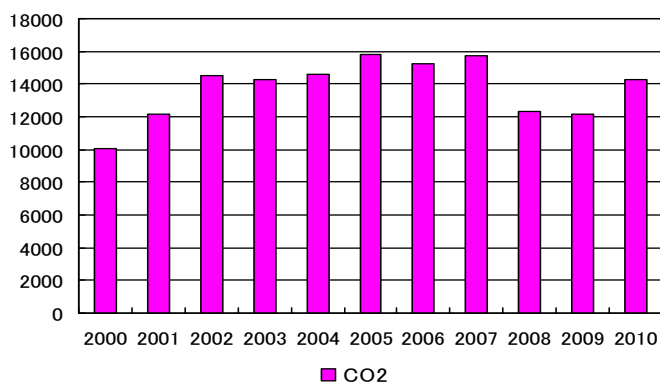
制定:2010年6月2日 平田 泰光

環境負荷データ

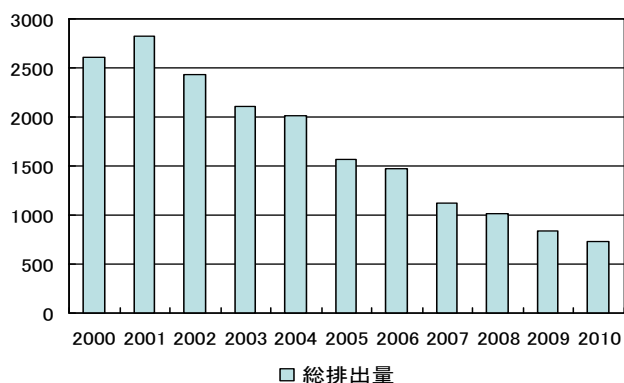
エネルギー使用量(単位:KL)



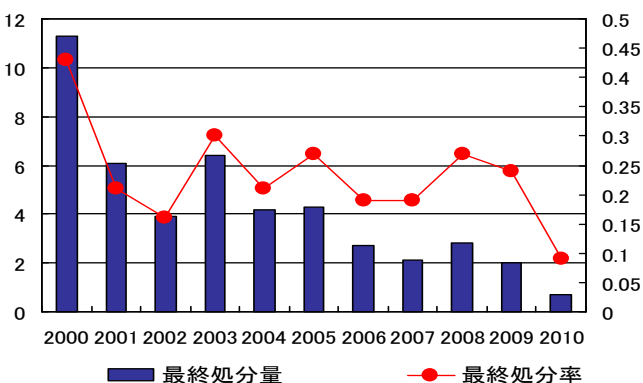
CO<sub>2</sub>排出量(単位:トン-CO<sub>2</sub>)



廃棄物総発生量(単位:トン)

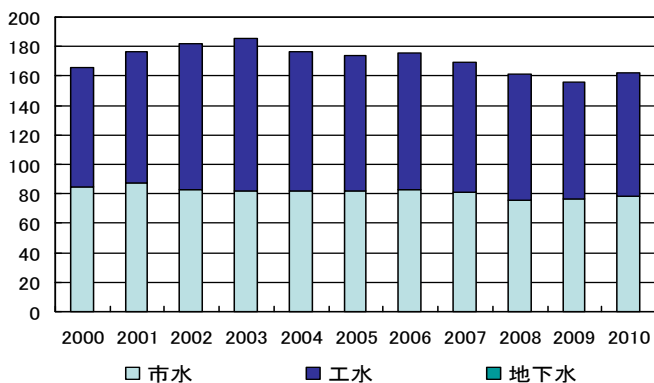


廃棄物最終処分量と最終処分率(単位:トン、%)

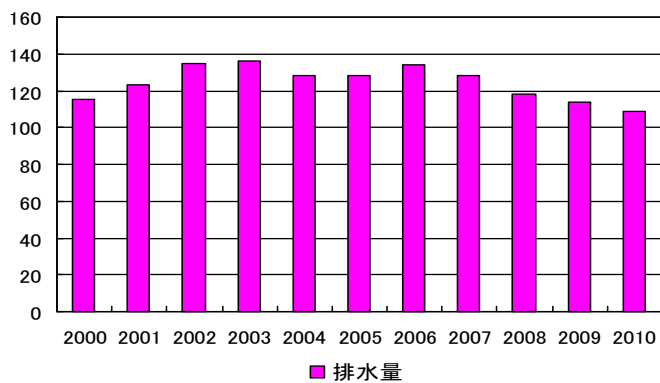


主な廃物名: 金属、紙屑、木くず、汚泥、ガラス類、廃プラスチック、廃油等

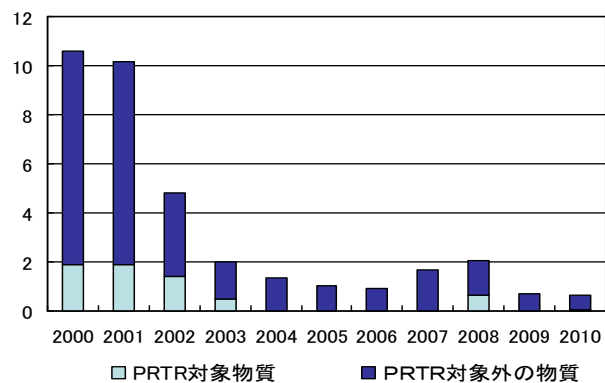
水の使用量(単位:千m<sup>3</sup>)



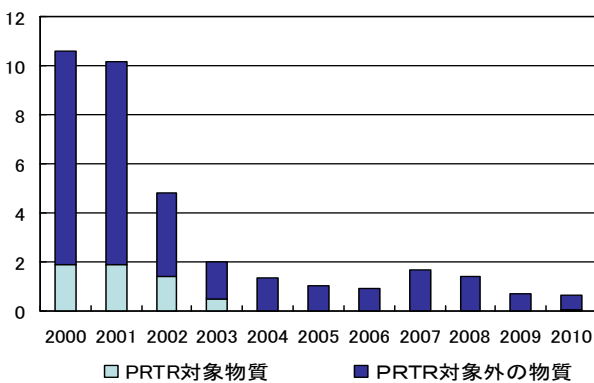
排水量(単位:千m<sup>3</sup>)



化学物質削減対象物質の取扱量(トン)



化学物質削減対象物質の排出量(トン)



主な化学物質: 鉛及びその化合物、イソプロピルアルコール、エチルアルコール、アセトン等

**遵法管理状況**

<大気測定結果> 多管式小型貫流ボイラー(都市ガス使用) 4台

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx(ppm)	55	45	20~25	年2回
SOx(Nm3/h)	対象外	対象外	対象外	対象外
ばいじん(g/Nm3)	0.1	0.01	<0.001~<0.001	年2回

<排水測定結果> 排水については公共下水道へ排出のため対象外

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)				
BOD(mg/ℓ)				
COD(mg/ℓ)				
SS(mg/ℓ)				
窒素(mg/ℓ)				
フッ素(mg/ℓ)				

<騒音・振動測定結果> 特定施設なし

	測定場所:時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界:昼				
	敷地境界:夜				
振動(dB)	敷地境界:昼				
	敷地境界:夜				

<その他測定結果> (下水道法:主な測定結果)

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.7~8.7(市条例)	6.0~8.5	8.0	月1回
BOD(mg/ℓ)	300(市条例)	240	134	月1回
SS(mg/ℓ)	300(市条例)	270	205	月1回

<環境事故・指導指摘・苦情の有無>

	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし